

卒業生調査の趣旨とその枠組 について

文部科学省平成24年度採択 大学間連携共同教育推進事業
「**教学評価体制（IRネットワーク）による学士課程教育の質保証**」

卒業生調査委員会

（北海道大学・お茶の水大学・大阪府立大学・関西学院大学）

2014年度IRシンポジウム 甲南大学

関西学院大学高等教育推進センター長
・国際学部教授 平林孝裕

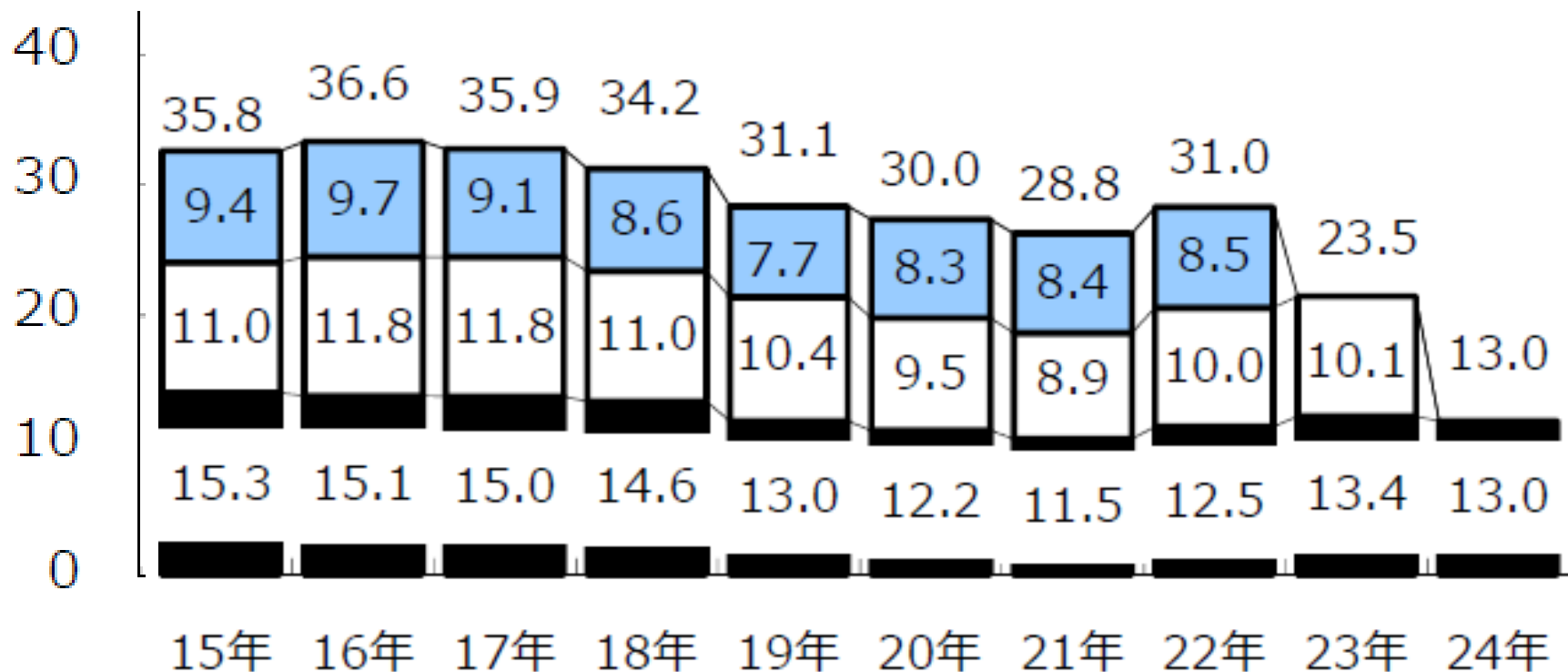
アウトライン

- **卒業生調査の背景とねらい：**
大学教育の職業的レリバンスへの問い
- **社会で働くための力と大学教育**
- **各大学での取り組み**
- **次回にむけての改善点**

卒業生調査のねらい

- よく言われる「大学をとりまく環境の激変」
- 「学びの質の保証」： では、何に対応するか？
- 社会において有為に働く人材の育成
では、そのような人材が育成されているか？
- その検証と改善の枠組みを目指す。

大学卒業後の現実



過去10年間の3年離職率

厚生労働省「新規学卒者の離職状況に関する資料一覧」より

<http://www.mhlw.go.jp/topics/2010/01/tp0127-2/dl/24-02.pdf>

大学教育は役立っているのか？

- 大学教育の職業的レリバンスへの疑問

大学で身につ
いていた能力

≠

社会で求めら
れている能力

- この二つの不一致（ミスマッチ）を把握し、大学教育の改善につなげるには、どうしたらよいか？

社会で働くための力とは？

- 経済産業省2006年から「社会人基礎力」提唱
- 大学で身につける「基礎力」「専門的知識」を活用して「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」の育成が提唱される。
- 「コンピテンシー」というキーワード

社会人基礎力   

社会で働くための力とは？

< 3つの能力 / 12の能力要素 >

前に踏み出す力 (アクション)

～一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



主体性

物事に進んで取り組む力

働きかけ力

他人に働きかけ巻き込む力

実行力

目的を設定し確実に行動する力

考え抜く力 (シンキング)

～疑問を持ち、考え抜く力～



課題発見力

現状を分析し目的や課題を明らかにする力

計画力

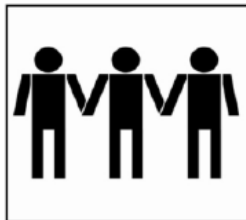
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力

創造力

新しい価値を生み出す力

チームで働く力 (チームワーク)

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



発信力

自分の意見をわかりやすく伝える力

傾聴力

相手の意見を丁寧に聴く力

柔軟性

意見の違いや立場の違いを理解する力

状況把握力

自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

規律性

社会のルールや人との約束を守る力

ストレスコントロール力

ストレスの発生源に対応する力

3つの「コンピテンシー」とは？

- 企業がもとめる人材の持つ能力とは？
- 大久保幸夫氏（リクルートワークス研究所所長）によれば
継続学習能力／学び続ける力
文脈理解力／チームワーク力
目標発見力／問題発見力
（「若手人材採用の「ミスマッチ」こうすれば防げる」より：
<https://jinjibu.jp/article/detail/keyperson/13/>）

文部科学省「学士力」との対応

- **知識や技能を活用して複雑な事柄を問題として理解し、答えのない問題に解を見出していくための批判的、合理的な思考力をはじめとする認知的能力**
- **・人間としての自らの責務を果たし、他者に配慮しながらチームワークやリーダーシップを発揮して社会的責任を担いうる、倫理的、社会的能力**
- **・総合的かつ持続的な学修経験に基づく創造力と構想力・想定外の困難に際して的確な判断ができるための基盤となる教養、知識、経験**

（「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」

[平成24年8月28日中央教育審議会答申] より)

ミスマッチ解消にむけた教育改善

- 社会が必要とする職業人が身につけるべき能力、「**コンピテンシー**」は、十分に大学時代にも身につけることができるし、それが求められている。
- ただし、それらの要素に「**オン・ザ・ジョブ**」で、深化されるものがあることも一方で事実。
- では、大学でとくに身につけるべき能力は、またそのために必要な教育上の「**働きかけ**」とは何か？

卒業生調査を活用して...

- **大学教育の職業的レリバンスを測定する手立て**
- **すでに社会で職業についている人々**
⇒ **卒業生が自分が受けた大学時代の教育をどのように評価するか？**
- **卒業生調査の活用が第一に考えられる。**

各大学での取り組み

- 北海道大学「卒業生に対する大学教育の成果に関する調査研究」（高等教育機能開発総合センター／キャリアセンター、2005年実施）ほか
- お茶の水女子大学「卒業生のライフコース」（文部科学省特別教育研究経費：女子リーダーズプログラムによる調査、2009年）ほか
- 関西学院大学「卒業生調査」（総合教育研究室、1999年・2005年／高等教育推進センター、2011年）

過去の卒業生調査の項目

- **性別・居住地 / 結婚・育児など**
- **学生生活 志願理由・大学時代の取り組み（授業・正課外活動・外国語能力）など**
- **就業状況 職種・職位、転職の有無・仕事上の能力の自己評価など**

.....大学によりその他の多様な項目がみられる。

- **これらを精査して、職業上のレリバンスの評価に関連する項目を精査していく。**

卒業生調査の項目選定

- **職業的レリバンスに関する項目**
 - 大学での取り組み（正課・正課外）
 - 大学で身についた能力の自己評価
 - 現在の仕事上の能力について自己評価
- **入学時の志望順位・初職の本意・不本意、転職の湯無などなど、上記にあげた大学での取り組みや職業モラルに影響が考えられる項目**
- **グローバル化を念頭においた項目：大学入学前の海外経験、留学の有無や就職後の海外勤務経験**

大学時代に身についた能力

- A) プレゼンテーション能力
- B) ディスカッション能力
- C) リーダーシップ
- D) 人間関係の構築力
- E) 論理的思考能力
- F) 企画・アイデアなどの創造力
- G) **自ら学び続ける力**
- H) ストレスに対応する力
- I) 多様な価値観を理解し、尊重する力
- J) 困難や未知の領域にチャレンジする力

現在の仕事上、必要な能力

- A) ストレスをマネジメントする力
- B) 好奇心を持って主体的に取り組む力
- C) 人的ネットワークを構築する力
- D) 異なった意見を持つ人々を調整する力
- E) 問題の本質や原因を見極める力
- F) 大きな目標を段階的な問題に仕分ける力
- G) リスクを見抜き改善の方向性を見出す力
- H) **自ら学び続ける力**

グローバル対応についての項目

- **大学時代に留学をしたか？**
長期短期の留学、語学研修、海外旅行
- **大学に入学する前の経験**
帰国生なども想定して、上記を精査するため
- **海外での勤務経験の有無／TOEICのスコア**

今後の社会で必要なすべて項目（たとえばIT関係のスキル）に対応できないので、とくにグローバル対応をとりあげた。

調査の実施

- 2013年度は、北海道大学と関西学院大学において質問項目を策定し、調査を実施。
- 2013年度末のステークホルダーからの指摘をもとに調査票を修正している。
- 2014年度は、大阪府立大学をくわえて実施する予定であり、すでに調査票を準備している。

2014年以降の調査にむけて

- **大学時代につけるべき能力と就業後に深化する能力の見極め、その育成に効果的な働きかけの発見**
- **調査対象を、5年、10年、15年に短縮**
- **調査項目の精査**
 - **コンピテンシー項目で「自ら学び続ける力」を深めてたずねる：勤務時間外に自己研鑽のために用いている時間の長さを問うこととする。**
 - **グローバル対応項目で、単に海外勤務の有無でなく、就業上どのような経験をしているかを尋ねる。**

ご清聴感謝します。

**調査結果については、北海道大学の
徳井先生の発表にて報告します。**